

平成 24 年度卒業論文

日本一の幸せ者を探せ

所属ゼミ 村澤ゼミ
学籍番号 1060401039
氏 名 片山 裕善

大阪府立大学経済学部

要約

人が感じる「幸せ」には個人差があり、客観的な指標を作り出して測定することは困難である。その為、何が人を幸せにするのか断定することは難しい。しかし私たちは、他人と幸せを分かち合うことが出来る以上、ある程度は指標を立てて幸福度を測ることができるかもしれない。例えばそれは結婚経験の有無であったり、お酒を嗜むのかといった趣向や、生まれ持った性別によって決まっているのかもしれない。

本稿では大竹(2005)、筒井(2010)の先行研究を踏まえ、統計ソフトとアンケート調査 JGSS-2002 のデータを利用して、幸せの要素を探り当てることを目的とする。どのようなヒトが幸せを勝ち取っているのか、「日本一の幸せ者」とはどんな人なのかという「幸せの指標」を掴み取り、自らの自己実現に繋げるとともに、近年脚光を浴び始めた「幸福の経済学」という分野の進展にも貢献したい。

回帰分析を行った結果、日本で幸せを感じるための要素は「結婚・満足・健康・九州・昇給・若さと老い・周囲との相対所得」であるとのデータが得られた。したがって、日本一幸せなのは、「九州に住む既婚の健康者、性別や子供の有無、喫煙、飲酒状況は問わないが、仕事や友人関係には大変満足している。死別は経験したことがなく、周囲には自分よりも貧しい人が暮らしており、最近昇給を経験した漁業従事者」である。

目次

第1章	はじめに	4
第2章	幸福の経済学.....	5
第3章	データ分析について.....	6
1	JGSS 概要	6
2	幸福度に関して.....	7
3	データの加工.....	8
4	説明変数一覧.....	9
第4章	分析手法-順序プロビットモデル.....	11
第5章	分析結果.....	12
1	基本推定結果.....	12
2	先行研究との比較.....	15
3	相対所得仮説の裏付け.....	17
第6章	おわりに.....	18

第1章 はじめに

本稿では統計ソフト `gretl` と実際の大規模全国調査アンケート `JGSS(2000-2003)`の結果を利用して、幸せの要素を探り当てることを目的とする。上記に挙げた研究目的の下に回帰分析を行った結果、日本で最も幸せを感じるための要素は「結婚・満足・健常・九州・昇給・若さと老い・周囲との相対所得」であるとのデータが得られた。

本稿の構成は以下の通り。第2章で先行研究、「幸福の経済学」を紹介する。第3章では分析に扱うデータについて説明する。第4章では分析に用いる順序プロビットモデルについて触れ、第5章に分析で得られた結果を載せている。最後に第6章で今後の課題を述べている。

第2章 幸福の経済学

近年では人の幸福度と経済学を結びつける研究も増え始め、人々の幸福度を考える上で、「何が幸福の要因となっているのか」を調べるために、統計学が用いられた先行研究も多々存在する。

大竹(2005)・筒井(2010)は、阪大の COE が独自に行った大規模アンケート調査の結果を利用して、人々が不幸になる原因を探っている。また、大竹(2005)の特徴は、とりわけ危険回避度や時間割引率といった「選好パラメータ」と幸福度との相関に重点を置いて分析を行っている点にある。これは、投稿者が行動経済学分野の研究者であることによる。

また、小林(2010)では本稿と同様に JGSS のデータを利用し、貧困と幸福度の相関に注視して検討している。具体的には、日本国内における都道府県レベルの貧困と人々の幸福度の相関を分析し、更に所得の再分配により貧困度が改善した際の人々の幸福度の変化を検証したものである。

本稿ではこれらの先行研究を踏まえ、同じデータの得られるものを照らし合わせながら検証し、幸せ者の人物像の姿に迫りたい。

第3章 データ分析について

1 JGSS 概要

JGSS とは Japanese General Social Surveys の略語で、日本人の意識や行動を総合的に調査することを目的とした大規模社会調査アンケートのことを示す。以下に JGSS に関する具体的な詳細を記すものとする。

JGSS のデータは調査年度によって質問項目が異なるが、毎年同じ内容を問いかけている設問が大半を占めている。調査対象は満 20～89 歳の男女であり、サンプルの抽出方法は層化 2 段抽出法をとり対象者を決定している。層化は、全国を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の 6 ブロックに分け、各ブロック内で市郡の規模に応じて政令指定都市、その他の市、市町村の 3 つに分ける方法をとっている。データの回収方法は、面接法と留置法を組み合わせたものである。回答者の質問項目へのより正確な回答を得るために、複雑な設問は面接法、容易なものやプライバシーが求められる設問は留置法によって回答を集めている。また、毎年同じ内容を問いかける質問には回答者の性別や年齢などといった基本属性が含まれ、そうでない質問に関しては、調査時点において世間で注目されている時事に関する質問が盛り込まれている。例えば、2002 年度の調査項目にあるギャンブル・カジノの設問が他年度に比べ、より詳細に問うている事の背景には、'02 年当時の東京都石原都知事が「お台場カジノ構想」を発表し、国内カジノ合法化に向けて都庁内でカジノのデモンストレーションを行った、といった社会的背景が存在する。

1972 年より、アメリカのシカゴ大学にある National Opinion Research Center が、総合社会調査として GSS(General Social Surveys)と呼ばれるものを発行し続けているが、JGSS はこれの日本版にあたるものである。日本版である JGSS は 1998 年にプロジェクトがスタートし、調査が始められてから間もないが、その調査項目は就業や世帯構成から死生観、政治意識に至るまで幅広く網羅されている。

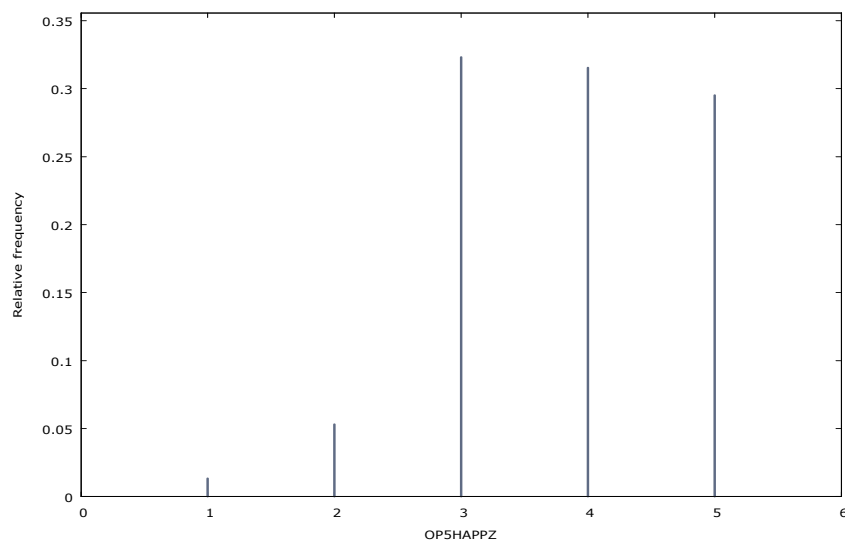
なお本研究においては、幸福度に関するデータを集めることを目的としているため、幸福度に関する回答が最も多く得られた、2000 年、2001 年度の調査データを使用することとする。

2 幸福度に関して

JGSS の中で幸福度に関しては、留置調査票において設問項目が設定されており、基本属性の位置づけとして毎年回答者に尋ねる項目となっている。回答者は「あなたは、現在しあわせですか」という問いかけに対し、5段階評価で回答することになる。この設問から、5を選んだ人が不幸で、1を選んだ人が最も幸せ者である、という結果が読み取れる。しかしながら、本研究の分析では不幸な人の姿ではなく、「幸せ者の人物像を探る」ということを目的として掲げている。その為、直感的に分かりやすいように変数を調整した。本稿の分析では1から5に対応する数値を反転させ、1を選んだ人が不幸で5を選んだ人が最も幸せ者である、としている。

なお、2000年度の当該設問に対する有効回答数は2893件、2001年度の有効回答数は2790件となり、本分析で用いる両年度の回答を併せた分布を表した結果が、下の図に示されている。これによると、人は「自分が不幸である」というよりも「自分が幸福である」と感じる傾向の方が強いことが分かる。この結果は、大阪大学COEによるアンケート調査データ、大竹(2005)「くらしの好みと満足度についてのアンケート」とよく似たものが得られている。なお、同アンケートでの幸福度への有効回答数は4187件であり、本稿で用いるサンプル数と比較しても、同程度のものである。

図3-1 幸福度と該当者の分布



3 データの加工

今回のように、アンケート調査の結果と統計ツールを利用してデータを分析する際には、準備段階として「収集データの加工」という行程を踏まなければならない。この行程を終えて初めて、正しいデータ分析を始めることができる点には十分留意すべきである。なお、この作業は gretl の最新版においては JGSS データを gretl へ導入した後も容易である。本稿での具体的な作業内容は①欠損値を除外する②説明変数の回答項目にダミー変数を割り当てる③必要に応じて新しい変数を定義する、の3つである。

①に関して、JGSS の設問による回答には「無回答・非該当・答えたくない」など、分析過程に含めると不具合が起こることが予測される様な、所謂「欠損値」というものが存在する。それらの回答項目は gretl で分析前に欠損値として指定し、除外する必要がある。

②について、本稿では分析に順序プロビットモデルを利用する。その為には回答項目にダミー変数を割り当てる行程が必須となる。

最後に③だが、本稿の「幸福度」に関する記述の箇所でも述べているが、JGSS での幸福度に関する変数 `op5happz` は 1 が幸せ、5 に近づくほど不幸である、と定義されている。しかし、「1 が不幸、5 が幸せ」である方が直感的にも分析結果を検討しやすいと思われる。そのため新たな変数 `OP5HAPPYZ` を用意し、同変数の定義式を $OP5HAPPYZ = 6 - op5happz$ とすることで幸福度と回答項目の値を反転させた。これにより、分析に使いやすい幸福度の変数を準備することができる。なお、年代ダミー変数に関しては一度全ての年齢に対してダミー変数を割り当てている。そして新たな年代ダミーを作り出し、定義式に回答者が各年代かどうかの判定基準となるものを設定した。

4 説明変数一覧

ここでは本稿で用いる説明変数の一覧を載せている。本稿では、これらの変数と被説明変数「OP5HAPPYZ」との相関を検討することになる。

図3-2 変数表一覧

変数	変数の説明
DMAN	男性=1
DMIKON	未婚者=1
DHITORIMI	独り身=1
DSIBETSU	死別経験者=1
DHUKENKO_1	健康度(5段階で_1が健康、_5が不健康)
DDOSAKE_GEKO	お酒を飲まない=1
ECOCOND_UP	家計の経済状態が好転した=1
ECOCOND_DOWN	家計の経済状態が悪化した=1
DFq4lotto	宝くじをしない=1
DFq4horse	競馬をしない=1
DFq4pachi	パチンコをしない=1
DCHILD	子どもがいない=1
DCITYSIZE_1	住んでいるのが大都市=1
DCITYSIZE_2	住んでいるのが都市=1
DCITYSIZE_3	住んでいるのが町村=1
DDosmoke_1	喫煙者=1
DDopet_1	ペットを飼っている=1
JOBNOUGYOU	農業従事者=1
JOBKINYUHOKEN	金融保険関係職従事者=1
JOBRINGYOU	林業従事者=1
JOBGYOGYOU	漁業従事者=1
JOBKOUGYOU	鉱業従事者=1
JOBKENSETU	建設業従事者=1
JOBSEIZOU	製造業従事者=1
JOBINHURA	インフラ業従事者=1
JOBUNYU	運輸業従事者=1
JOBOROSIURI	卸売業従事者=1
JOBKOURI	小売業従事者=1
JOBINSHOKU	飲食業従事者=1
JOBHUDOSAN	不動産業従事者=1
JOBMASKOMI	マスコミ報道関係職従事者=1
JOBJOHOTUSIN	情報通信職従事者=1
JOBIRYOHUKUSI	医療福祉職従事者=1
JOBKYOIKUKENKYU	教育研究職従事者=1
JOBHORITUKAIKEI	法律会計職従事者=1
JOBSONOTASABISU	その他サービス職従事者=1
JOBKOUMU	公務員=1
JOBSONOTA	その他職業従事者=1

NENSHU0	年収ダミー(0円=1)
NENSHU70	年収ダミー(0~70万円=1)
NENSHU100	年収ダミー(70~100万円=1)
NENSHU130	年収ダミー(100~130万円=1)
NENSHU150	年収ダミー(130~150万円=1)
NENSHU250	年収ダミー(150~250万円=1)
NENSHU350	年収ダミー(250~350万円=1)
NENSHU450	年収ダミー(350~450万円=1)
NENSHU550	年収ダミー(450~550万円=1)
NENSHU650	年収ダミー(550~650万円=1)
NENSHU750	年収ダミー(650~750万円=1)
NENSHU850	年収ダミー(750~850万円=1)
NENSHU1000	年収ダミー(850~1000万円=1)
NENSHU1200	年収ダミー(1000~1200万円=1)
NENSHU1400	年収ダミー(1200~1400万円=1)
NENSHU1600	年収ダミー(1400~1600万円=1)
NENSHU1850	年収ダミー(1600~1850万円=1)
NENSHU2300	年収ダミー(1850~2300万円=1)
MORETHAN2300	年収ダミー(2300万円以上=1)
DDOFINDJOB	求職中=1
HOKKAIDOTOHOKU	北海道に住んでいる=1
KANTO	関東に住んでいる=1
CHUBU	中部に住んでいる=1
CHUGOKUSIKOKU	中国・四国に住んでいる=1
KYUSHU	九州に住んでいる=1
MYHOMEIKKO	住居が自宅一戸建て=1
MYHOMESHUUGOU	住居が自宅集合住宅=1
CHINTAIKKODATE	住居が賃貸一戸建て=1
CHINTAISHUUGOU	住居が賃貸集合住宅=1
SHATAKUIKKODATE	住居が社宅一戸建て=1
SHATAKUSHUUGOU	住居が社宅集合住宅=1
KOUSHAIKKODATE	住居が公舎一戸建て=1
KOUSHASHUUGOU	住居が公舎集合住宅=1
DAISOTSU	学歴が大卒=1
INSOTSU	学歴が院卒=1
TANDAIKOUSENSOT	学歴が短大・高専卒=1
KOSOTSU	学歴が高卒=1
CHUSOTSU	学歴が中卒=1
GEN20	20歳代=1
GEN30	30歳代=1
GEN40	40歳代=1
GEN50	50歳代=1
GEN60	60歳代=1
GEN70	70歳代=1
GEN80	80歳代=1
DSt5job_1	仕事への満足度(5段階で_1が満足、_5が不満)
DSt5friu_1	友人関係満足度(5段階で_1が満足、_5が不満)
DSHUKYO_1	宗教を信仰している=1
DSHUKYO_2	宗教を信仰していないが家に宗教がある=1
DSHUKYO_3	宗教を信仰していない=1
DOp5ffinx_1	周囲と比較した生活水準(5段階で_1が低い、_5が高い)

第4章 分析手法—順序プロビットモデル

先に統計ツール gretl を用いた分析を行う旨を述べたが、ここでは分析で利用するモデルについて述べてゆく。まず、本稿の目的は幸福度と様々な変数の相関を見ることにある。変数同士の相関を見るために、gretl では一般線形回帰モデルや多変量線形モデル、制限従属変数モデルといった幅広いモデルの推定に対応しているが、本稿では制限従属変数モデルの中に含まれる、順序プロビットモデルを用いた分析が好ましいと判断した。その理由としては、①被説明変数(幸福度)が離散的な値のため、被説明変数が連続的な値をとることを前提とした OLS 推定での推計ができない。②被説明変数(幸福度)が質的変数である、の2点が挙げられる。

順序プロビットモデルを考える際には、順序に応じて与えられている数値間での絶対的な差に意味合いがないことには注意をする必要がある。例えば、幸福度の設問において1を選んだ人と5を選んだ人との間では、幸福度が5倍違うのかと言えば、単純にそういうわけではない。選択肢に与えられた1~5の数字は、A~Eのように単純に割り振られた記号のようなものとして捉えれば良い。

第5章 分析結果

1 基本推定結果

分析結果と先行研究データとを比較するため、JGSS から得られた基本的な属性(年齢や性別等、人として基本的な属性)の説明変数データを導入し、幸福度との相関を考察した。

図5-1 基本推定結果

説明変数	係数	標準誤差	z値	p値	
DMAN	0.09	0.06	1.51	0.13	
DMIKON	-0.87	0.12	-7.54	0	***
DHITORIMI	-0.12	0.11	-1.07	0.28	
DSIBETSU	-0.56	0.13	-4.15	0	***
DHUKENKO_1	0.47	0.07	7.01	0	***
DHUKENKO_2	0.18	0.06	2.83	0	***
DHUKENKO_4	-0.19	0.07	-2.62	0.01	***
DHUKENKO_5	-0.29	0.14	-2.03	0.04	**
DOSAKE_GEKO	-0.03	0.07	-0.44	0.66	
ECOCOND_UP	0.22	0.1	2.28	0.02	**
ECOCOND_DOWN	-0.22	0.05	-4.32	0	***
DFq4lotto_4	0.03	0.05	0.57	0.57	
DFq4horse_4	0.06	0.06	0.93	0.35	
DFq4pachi_4	0.04	0.06	0.72	0.47	
DCHILDNUM_0	0.14	0.09	1.49	0.14	
DCITYSIZE_1	0.06	0.08	0.75	0.45	
DCITYSIZE_2	0.06	0.06	1.01	0.31	
DDosmoke_1	-0.09	0.05	-1.71	0.09	*
DDopet_1	0.02	0.05	0.43	0.67	
JOBNOUGYOU	0.41	0.18	2.24	0.02	**
JOBRINGYOU	0.8	0.73	1.1	0.27	
JOBGYOGYOU	0.68	0.33	2.1	0.04	**
JOBKOUGYOU	0.41	1.07	0.39	0.7	
JOBKENSETU	0.12	0.15	0.8	0.42	
JOBSEIZOU	0.21	0.14	1.53	0.13	
JOBINHURA	-0.04	0.3	-0.13	0.9	
JOBUNYU	0.21	0.17	1.23	0.22	
JOBOROSIURI	0.24	0.19	1.3	0.19	
JOBKOURI	0.19	0.14	1.32	0.19	
JOBINSHOKU	0.09	0.18	0.47	0.64	
JOBHUDOSAN	0.2	0.27	0.75	0.45	
JOBMASKOMI	0.55	0.28	1.94	0.05	*
JOBJOHOTUSIN	-0.12	0.2	-0.59	0.55	
JOBIRYOHUKUSI	0.1	0.16	0.64	0.52	
JOBKYOIKUKENKYU	0.09	0.17	0.55	0.58	
JOBHORITUKAIKEI	-0.18	0.34	-0.52	0.6	
JOBSONOTASABISU	0.16	0.14	1.08	0.28	
JOBKOUMU	-0.03	0.18	-0.19	0.85	
JOBSONOTA	1.37	0.84	1.62	0.11	

NENSHU0	1.13	0.84	1.35	0.18	
NENSHU70	-0.43	0.31	-1.4	0.16	
NENSHU100	-0.26	0.29	-0.9	0.37	
NENSHU130	0.14	0.28	0.49	0.62	
NENSHU150	-0.46	0.26	-1.77	0.08	*
NENSHU250	0.01	0.14	0.1	0.92	
NENSHU350	0.02	0.11	0.17	0.87	
NENSHU550	-0.02	0.1	-0.22	0.83	
NENSHU650	-0.18	0.1	-1.74	0.08	*
NENSHU750	-0.03	0.11	-0.28	0.78	
NENSHU850	0.05	0.1	0.43	0.66	
NENSHU1000	0.1	0.1	1.03	0.3	
NENSHU1200	0.12	0.11	1.11	0.27	
NENSHU1400	0.16	0.13	1.2	0.23	
NENSHU1600	0.35	0.17	2.09	0.04	**
NENSHU1850	0.09	0.18	0.48	0.63	
NENSHU2300	0.48	0.24	2.01	0.04	**
MORETHAN2300	0.61	0.25	2.42	0.02	**
DDOFINDJOB	-0.01	1.07	-0.01	0.99	
HOKKAIDOTOHOKU	0.09	0.09	0.95	0.34	
KANTO	0.06	0.07	0.87	0.39	
CHUBU	-0.01	0.08	-0.12	0.9	
CHUGOKUSIKOKU	0.03	0.09	0.36	0.72	
KYUSHU	0.3	0.09	3.24	0	***
MYHOMESHUUGOU	-0.08	0.1	-0.77	0.44	
CHINTAIKKODATE	-0.09	0.14	-0.64	0.52	
CHINTAISHUUGOU	-0.06	0.09	-0.67	0.5	
SHATAKUIKKODATE	-0.23	0.4	-0.57	0.57	
SHATAKUSHUUGOU	0.09	0.17	0.53	0.6	
KOUSHAIKKODATE	0.09	0.78	0.12	0.9	
KOUSHASHUUGOU	-0.02	0.11	-0.16	0.87	
INSOTSU	0.19	0.23	0.84	0.4	
TANDAIKOUSENSOT	-0.02	0.09	-0.26	0.79	
KOSOTSU	-0.11	0.06	-1.64	0.1	
CHUSOTSU	-0.21	0.09	-2.35	0.02	**
GEN20	0.34	0.12	2.83	0	***
GEN30	0.28	0.1	2.95	0	***
GEN40	0.09	0.09	1.01	0.31	
GEN50	0.1	0.08	1.18	0.24	
GEN70	0.12	0.15	0.81	0.42	
GEN80	1.07	0.54	1.99	0.05	**
DSt5job_1	0.28	0.07	3.86	0	***
DSt5job_2	0.11	0.06	1.79	0.07	*
DSt5job_4	-0.16	0.09	-1.81	0.07	*
DSt5job_5	0	0.14	-0.02	0.99	
DSt5friy_1	0.65	0.07	9.32	0	***
DSt5friy_2	0.29	0.06	5.06	0	***
DSt5friy_4	-0.15	0.09	-1.68	0.09	*
DSt5friy_5	-0.5	0.22	-2.27	0.02	**

DSHUKYO_1	0.15	0.09	1.75	0.08	*
DSHUKYO_2	-0.04	0.06	-0.64	0.52	
cut1	-2.05	0.23	-9.04	0	***
cut2	-1.18	0.21	-5.53	0	***
cut3	0.27	0.21	1.28	0.2	
cut4	1.32	0.21	6.21	0	***
注:*有意水準10%**有意水準5%***有意水準1%					

男性ダミーは有意ではない。未婚者は既婚者に比べ、優位に不幸である。独り身か否かは幸福度に影響を与えない。死別経験者は死別未経験者より有意に不幸である。健常者は不健常者より有意に幸せである。お酒を飲まない人のダミーは有意ではない。家計の経済状態が変化していない人と比べ、好転した人は有意に幸福であり、逆に悪化した人は有意に不幸である。宝くじ、競馬、パチンコの頻度と幸福度の相関は見られない。また、子供の有無は幸福度との相関が見られない。市群規模も幸福度との相関は見られない。喫煙者は非喫煙者に比べ、有意に不幸である。ペットを飼っている人のダミーは有意ではない。職業について、ここでは金融保険業界従事者のダミーを除外してある。金融保険業界従事者に比べ、漁業、マスコミ、農業関係職従事者が以上の順で有意に幸福である。年収については、日本のサラリーマン平均年収を基準として見るため、450万円のダミー変数を除外した。結果、1600万円を超える年収を持つ人達について、多ければ多いほど幸せを感じているとのデータが示された。求職中か否かは幸福度との相関が見られない。居住地方については、近畿地方居住者との比較データが表わされている。

これによると九州居住者が他地方居住者と比べ、圧倒的に有意に幸福であることが分かる。しかし、居住形態は幸福度との相関が見られない。学歴が大卒者の人に比べ、中卒の人は有意に不幸である。年齢については、60歳代ダミー変数を説明変数から除外してあるので、60歳代の人と比較したデータが示されている。これによると、人の幸福度は40～60歳代を底とした緩やかなUの字曲線を描く。また、世代間では80歳代が最も幸せを感じられる年代である。仕事、友人関係への生活満足度は概ね幸福度と相関を持つ。即ち、生活への満足度が高ければ高いほど幸せである。宗教信仰者は信仰していない人と比べ、有意に幸福である。

2 先行研究との比較

以下の表は筒井(2010)とのデータの比較である。

「幸福度と相関が見られるものを○」、「見られないものを×」とし、「相関が見られるが本稿と大竹・筒井を比較して異なる相関が見られたものを△」としている。

図5-2 先行研究と本稿との比較

変数	大竹・筒井	本稿
性別	×	×
結婚	○	○
死別経験	○	○
単身	○	×
健康度	○	○
年齢	△	△
子供	×	×
学歴	○	○
職種	△	△
求職	○	×
世帯所得	○	○
所得変化	×	○
宗教信仰	○	○
喫煙	○	○
飲酒	×	×
ギャンブル	×	×
居住地方	△	△
市群規模	○	×
居住形態	○	×

本稿と筒井(2010)で共通の分析結果が得られたのは性別、結婚、死別、健康、子供、世帯所得、宗教信仰、喫煙、飲酒、ギャンブル、学歴であった。異なる分析結果が得られたのは、単身、求職、所得変化、市群規模、居住形態である。

また、年齢について、大竹・筒井では20～60歳代までのデータを取り扱っており、その中で「若ければ若いほど幸せ」という結果が出ている。これは本稿とも概ね整合的である。しかし、本稿では20～80歳代までのデータを取り扱っている。これによると80歳代の方が20歳代の人を上回って幸福であることがわかる。

職種について、本稿では農業従事者が幸福であるとの結果が出たが、大竹(2005)、筒井(2010)では農林業従事者について、有意な値が出ていない。

最後に居住地方だが、大竹(2005)、筒井(2010)によると、幸福な居住地方から順に、近畿、九州、東北、北海道となっている。本稿では近畿よりも有意に幸福なのは九州であるとの結果が示された。係数の大きさでは九州、北海道東北、関東、中国四国、近畿、中部の順であるが、九州以外の値はいずれも有意ではない。

3 相対所得仮説の裏付け

筒井(2010)では、説明変数に生活水準の説明変数を加えることで、相対所得仮説の裏付けを行っている。JGSSでは「世間一般と比べて、あなたの世帯収入はどれくらいですか」の設問を設けている。そこで、これを説明変数に加えて再度分析を行った。また、生活満足度に関する変数と幸福度の影響を見るため、説明変数に生活満足度の変数も加えている。

なお、その他の説明変数には表と同じ物を用いているが、紙面を節約するため、基本推定結果とは大きく違いの表れた部分のみ記載している。

図5-3 相対所得変数を加えた推定結果

説明変数	係数	標準誤差	z値	p値	
NENSHU0	1.18	0.84	1.41	0.16	
NENSHU70	-0.3	0.31	-0.97	0.33	
NENSHU100	-0.08	0.29	-0.27	0.79	
NENSHU130	0.27	0.28	0.96	0.34	
NENSHU150	-0.38	0.26	-1.45	0.15	
NENSHU250	0.1	0.14	0.75	0.45	
NENSHU350	0.04	0.11	0.36	0.72	
NENSHU550	-0.02	0.1	-0.22	0.83	
NENSHU650	-0.22	0.1	-2.14	0.03	**
NENSHU750	-0.09	0.11	-0.8	0.42	
NENSHU850	-0.02	0.11	-0.16	0.87	
NENSHU1000	0	0.1	0.01	0.99	
NENSHU1200	0	0.11	0	1	
NENSHU1400	0.03	0.13	0.25	0.8	
NENSHU1600	0.18	0.17	1.05	0.3	
NENSHU1850	-0.1	0.19	-0.53	0.6	
NENSHU2300	0.24	0.24	0.98	0.33	
MORETHAN2300	0.36	0.27	1.36	0.17	
DOp5ffinx_1	-0.47	0.1	-4.78	0	***
DOp5ffinx_2	-0.19	0.06	-3.35	0	***
DOp5ffinx_4	0.14	0.08	1.73	0.08	*
DOp5ffinx_5	0.52	0.27	1.94	0.05	*
cut1	-2.15	0.23	-9.35	0	***
cut2	-1.28	0.22	-5.89	0	***
cut3	0.2	0.21	0.92	0.36	
cut4	1.26	0.21	5.86	0	***

分析の結果、他人よりも自分の生活水準が高く感じている人は優位に幸せであることがわかった。また、ここで注目すべきは、「他人との生活水準の違い」をコントロールした直後に、年収と幸福度の相関が見られなくなった点である。この結果から、年収が高くても、周囲の人より生活水準が低いと感じている人は幸せではないことが分かる。

第6章 おわりに

本稿で行った分析の結果、日本で最も幸せを感じるための要素は「昇給・結婚・年齢・学歴・健康・九州・無煙・周囲との所得の差」であるとのデータが得られた。従って本稿のテーマ、日本で最も幸せを感じている人とは、「結婚して生活拠点は九州においでいる。タバコは特に吸わず、学歴はそれなりのものを得ている。子供はいないかもしれないが、死別を経験したわけではない。年収は多かれ少なかれ、周囲よりも生活水準が高いと感じており、生活水準は上がり基調な80歳代の高齢者、もしくは20歳代の若者」である。

本稿の課題は、役職と年齢、幸福度の関係についての明確なデータが取れていないところにある。最も幸福度が低くなる年代では、仕事における役職や責任の重さが幸福度に影響を及ぼしている可能性がある。しかし、JGSSのデータでは分析に用いたい年度での設問が無く、説明変数に加えることができなかった。これを加えることによって、より純粋な幸福度への年齢の影響を得ることが可能であると考えられる。また、他にも使用したい説明変数の該当年度データが存在しないということが多々あった。その為、幸福度へのより正確な影響を得るために、分析のしやすい更なる調査データが必要である。

謝辞

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学比較地域研究所が、文部科学省から学術フロンティア推進拠点としての指定を受けて（1999-2003年度）、東京大学社会科学研究所と共同で実施している研究プロジェクトである（研究代表：谷岡一郎・仁田道夫、代表幹事：佐藤博樹・岩井紀子、事務局長：大澤美苗）。東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJ データアーカイブがデータの作成と配布を行っている。

参考文献

大竹文雄（2005）「なぜあなたは不幸なのか」

小林美樹（2010）「地域の貧困と人々の幸福度」

筒井義郎（2010）「幸福度研究の概観と日本人の幸福感」日本評論社